

(特非) アジア太平洋資料センター (PARC)

携帯電話等小型電子機器と鉱物採掘における環境問題 の関係性を示した環境教育教材の開発・実践および普及

イベント参加者の満足度	97%
海外取材の記録映像	980GB
活動の全体目標に対する達成度	65%



取材したコンゴ民主共和国の採掘現場

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 映像で採掘現場の問題が伝わる環境教育教材『スマホの真実—紛争鉱物と環境破壊とのつながり』を制作。制作途中からすでに出張講義など15ヶ所以上の依頼を受ける。
- 工夫** 遠くの国で起きている環境破壊となるべく身近なものとの関係性を明らかにすることで関心を持ってもらうこと。

課題

携帯電話などの小型家電に使用されている鉱物は世界中で採掘されているが、その現場で起きている環境破壊について、日本の消費者に十分に伝える必要がある。

活動内容

私たちが日々使用している小型家電に使われている鉱物のために、環境破壊が行われている、あるいは、行われようとしていることをつなげて説明する環境教育ビデオを作成し、50ヶ所以上の教育機関延べ1,000名以上の学生に、問題が伝わることを目指す。また、そのために現場を3ヶ所以上訪れ、合計30日間程度の取材を行う。映像教材の制作と並行して、各取材箇所にもつわる報告会などを通して、市民社会への問題の普及啓発にも努める。



スマホに欠かせないレアメタル「タンタル」

今後の課題

教材DVDの制作が完了したので、それを有効活用し、十分な普及啓発を行わなければ、これまでの成果の意義が失われてしまう。十分に活動していくことが次年度の課題。